

ボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)情勢月報(2025年10月分)

2025年10月

在ボスニア・ヘルツェゴビナ日本国大使館

目次(以下は主なトピックを抜粋)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●[カラバBH中央選挙管理委員会\(CEC\)新委員長が就任\(1日\)](#)

●[コバチェビッチ判決の全文公開\(1日\)](#)

●[上級代表による第68回国連安保理報告\(31日\)](#)

(2) エンティティ、特別区

ア ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

●[BH連邦監査局による2024年予算執行に関する報告書公開\(18日\)](#)

イ スルプスカ共和国(RS)

●[RS国民議会の決定:6法律の無効化とRS大統領代行決定等\(18日\)](#)

●[RS住民投票の不実施\(25日\)](#)

●[米国のRS指導部に対する制裁解除\(29日\)](#)

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●[フォン・デア・ライエン欧州委員会委員長のBH訪問\(14日\)](#)

●[クリシュトBH閣僚評議会議長のベルリン・プロセス首脳会合への参加\(23日\)](#)

(2) 二国間関係

●[ギンケル当地米臨時代理大使のBH指導者との会談\(22～23日\)](#)

(3) 日・BH関係

●[令和6年度草の根・人間の安全保障無償資金協力「イエゼロ市ごみ収集車整備計画」引渡式の実施\(17日\)](#)

●[ボスニア・ヘルツェゴビナ国立・大学図書館への訪問\(27日\)](#)

3. 経済

(1) 経済指標(出典: BH統計局)

(2) 経済政策・公共事業

●[BH中央銀行、旧紙幣の交換を呼びかけ\(27日\)](#)

(3) 経済協力

●[セリモビッチBH中央銀行総裁のクロアチア訪問\(28日\)](#)

(4) 民間セクター

●[国民的歌手ハリド・ベシュリッチ死去\(13日\)](#)

(注: この月報は、当地紙報道などの公開情報を取りまとめたものです。)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●カラバBH中央選挙管理委員会(CEC)新委員長が就任(1日)

1日、前任のハジアブディッチ氏に代わり、カラバ氏が新しいCEC委員長に就任した。同委員長は、21ヶ月ごとのローテーション制であり、任期は2027年6月までとなっている。

●コバチェビッチ判決の全文公開(1日)

1日、欧州人権裁判所(ECHR)は、コバチェビッチ判決の全文を公開した。同判決は、BH民族院(上院)及びBH大統領評議会メンバーの選挙において、構成民族の要件に制限され、申立人が選びたい候補者への投票を妨げられたとしてECHRに対して申し立てたが、受理可能性の濫用及び「被害者としての地位」を欠くとして受理しない決定が下されていた。これを受けて、コバチェビッチ氏は、判決には主張を裏付ける法的根拠が全くなく、一連の不正確で恣意的な主張により裁判所の信用を失墜させる試みであると批判した。

●チュディッチ「我らの党(NS)」新党首の就任(11日)

11日、連立与党トロイカを構成する「我らの党(NS)」は、結党17年の歴史において初の女性党首となるサビナ・チュディッチ氏を選出したことを発表した。就任後すぐ、チュディッチ新党首は、我らの党は民族や社会階層に関わらず、公正な社会とすべての市民の平等のために闘うという理念を堅持し、BHに新たな機会をもたらすために、国際的なアクターと協力していく、と語った。

●BH大統領評議会によるトランプ米大統領のノーベル平和賞への推薦(14日)

14日、BH大統領評議会は、トランプ米大統領をノーベル平和賞に推薦することを全会一

致で決定した。同評議会は、同大統領を公式に推薦する旨を近日中にノーベル賞委員会(ノルウェー・オスロ)に提出する予定。推薦理由について、同評議会は、トランプ米大統領は、紛争を終結させたイスラエル及びパレスチナ間の仲介に際して鍵となる役割を果たしたと説明した。

●上級代表による第68回国連安保理報告(31日)

31日、当地上級代表事務所(OHR)は、シュミット上級代表による第68回国連安保理報告書(2025年4月16日から2025年10月15日まで)を公表した。同報告書では、BHにおける政治危機が、RS当局とドディック前RS大統領(独立社会主義者同盟(SNSD)党首)によって引き起こされているが、あくまで政治的な性格のものであり、平和は維持されていると報告した。一方、RS政府も独自の対国連安保理報告書をNYのロシア国連代表部宛に送付し、「ド」前RS大統領への有罪判決をめぐる現在の政治危機の原因が上級代表及びボシュニャクにあると抗弁した。

(2) エンティティ、特別区

ア ポスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

●サラエボ・カントン議会の新科学・高等教育・青年大臣の任命(15日)

15日、サラエボ・カントン議会で、政治任用でない専門家のボシュコビッチ氏が新しい科学・高等教育・青年大臣に任命された。前任のメシホビッチ前大臣は、汚職の疑いで逮捕され、2ヶ月目まで拘留されていたが、その後同カントン議会議長代理に任命され、同職の法的正当性は依然として疑問視されている。

●BH連邦監査局による2024年予算執行に関する報告書公開(18日)

18日、BH連邦監査局は、2024年のBH連

邦予算執行に関する報告書を発表し、2024年は、最終的に1億8000万KMの赤字で終わり、前年比で1億3000万KMの赤字が増加し、同時に11回の債券発行で総額5億3000万KM(金利3.5%~5.25%)を借り入れており、今年度の予算執行への影響を抑えるよう調整することを勧めている。また、BH連邦において、収入と支出の均衡を修正するための活動がなされなかった点を指摘し、2025年BH連邦予算の慎重かつ法的手続きに則った執行を求めるとした。

イ スルプスカ共和国(RS)

●ドディック前RS大統領のロシア訪問(2日)

2日、ドディック前RS大統領は、ヴァルダイ会議に出席するため、ロシア・ソチを訪問した。ヴァルダイ会議では、会場でプーチン大統領の演説を最前列で聴取し、同会議のマージンにおいて、プーチン露大統領と会談した。会談後、「ド」前RS大統領は、ロシアはRSの立場を支持しており、外国の不当な干渉を排除することが重要であり、国際的な介入主義がボシュニャクとセルビア系の関係を悪化させたと指摘した。

●RS憲法裁判所におけるボシュニャク議員団による「民族の死活的利益(VNI)」保護の要請に関する決定(3日)

3日、RS憲法裁判所のVNI評議会において、8月22日に採択されたRS国民議会の法令が、ボシュニャクのVNIを侵害しているかについてRS憲法上の権限に基づき、決定した。同評議会は、RS住民投票法改正の決定は、ボシュニャクのVNIを侵害していないと判断。その理由として、異議申し立てられた同法案に規定されている「RS住民投票委員会」(注:今回のBH裁判所によるドディック前RS大統領に対する有罪判決受け入れの可否を問う住民

投票のようなアド・ホックな住民投票を実施するためだけに設立される委員会)は、公的機関の地位を有さず、立法、行政及び司法のいずれでもないため、憲法上のいずれかの構成民族を不利な立場に置くものではないとした。

●米国財務省によるRS政府高官への制裁一部解除(17日)

17日、米財務省外国資産管理室(OFAC)は、一昨年及び昨年に「RSの日」の祝賀行事の実施に関与したことを理由に制裁を科していた4名のRS高官(バシュティナツRS大統領府事務局長他3名)への制裁を解除した。

●RS国民議会の決定:6法律の無効化とRS大統領代行決定等(18日)

18日、RS国民議会は、かねてからBH憲法裁判所により、違憲と判断されていた6つのエンティティ法(①RS資産登記関連法、②BH憲法裁判所決定不履行法、③RS選挙法、④BH違憲機関決定不履行法、⑤RS刑法改正、⑥RS高等司法検察評議会法)及びRS国民議会決定の効力を終了させ、RS大統領代行を任命した。同決定の背景につき、これらの法は、元々RSへの法的な攻撃に対抗するため暫定的な性格のものとして採択されており、RSへの攻撃が停止されたことから、国内的及び国際的対話、デイトン和平合意の尊重、2つのエンティティと3民族の尊重に基づくBH国内の関係作りの端緒とするためと説明した。

●「安全なスルプスカ運動」(PSS)の発足(19日)

19日、スタニブコビッチ進歩民主党(PDP)党首は、「安全なスルプスカ運動」(PSS)の発足を宣言した。同党首は、この運動の設立は、PDP、ラドイチッチ氏の独立した運動、そしてこの運動に参加する政党や組織の消滅を意味するものではなく、2026年のBH総選挙

(RS大統領選、RS国民議会選挙等含む)に向けて、SDSとも共通の政治プラットフォームを作る用意があるとし、今後10年間の展望についても合意したいと意気込みを語った。

●RS住民投票の不実施(25日)

25日、RSで予定されていた住民投票は実施されなかった。8月23日のRS国民議会において、「選挙で選ばれていない外国人クリスティアン・シュミットの決定、BH裁判所によるRS大統領に対する判決及びCECによるドディック大統領(ママ)の職務剥奪の決定を受け入れるか」という質問項目を設けた住民投票の実施を決定していた。また、10月初旬には、ドディック前RS大統領は、1月9日に住民投票を延期せざるを得ないという可能性を滲ませていた。

●ドディック前RS大統領のベラルーシ訪問(28日)

28日、ドディック前RS大統領は、ミンスクで行われたユーラシア安全保障国際会議に出席し、同日にマージンでラブロフ露外相と面会した。面会后、「ド」前RS大統領は、国連安保理会合に関して、ロシア及びRS双方はEUFORマンデートを延長すべきことで合意したと語り、我々は当初異議があったが、それはEUFORがムスリムの要求に従っていたという事実があったためと説明した。

●米国のRS指導部に対する制裁解除(29日)

29日、米財務省外国資産管理室(OFAC)は、ドディック前RS大統領、ツビヤノビッチBH大統領評議会セルビア系メンバー、ステバンディッチRS国民議会議長及びカランRS「科学・技術・高等教育大臣」(前倒しRS大統領選の候補者)等を含む関係者・企業に対する制裁を解除した。ドディック前RS大統領は、トランプ米大統領と彼の側近に感謝すると述べ、

オバマ元米大統領及びバイデン前米大統領によりもたらされた大きな不正を修正し、RSとその貢献者の名誉回復となると語った。

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●BH大統領評議会3メンバーのブルド・ブリュニ・プロセス首脳級会合参加(6日)

6日、ボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)大統領評議会3メンバーは、アルバニアで開催されたブルド・ブリュニ・プロセス(注:スロベニア及びクロアチアのイニシアティブで2013年に開始した、西バルカン諸国のEU加盟に向けた協力を促進するための枠組み)首脳会合に出席した。コムシッチBH大統領評議会議長(クロアチア系メンバー)は、西バルカン諸国には、欧州統合、西バルカン成長計画、若者と頭脳流出、地域協力及び安全保障といった議題があり、それに伴う失望感もあるが、欧州統合は依然としてBHの目標であることを再度強調したと語った。

●コナコビッチBH外務大臣のベルリン・プロセス外務大臣会合への参加(8日～9日)

10月8日から9日にかけて、コナコビッチBH外務大臣は、ベルファストに滞在し、イギリス主催のベルリン・プロセス外務大臣会合に参加した。同会合には、西バルカン諸国及びEU加盟国から大臣及び代表団が集まり、欧州安全保障と移民、和解、地域及び欧州統合、経済と技術革新について議論した。欧州安全保障と移民に関する会合では、サラエボで開催されたジェンダー平等フォーラムの成果文書の採択が確認され、平和構築、紛争予防、安全の維持における女性のより強力な参加に向けた重要な一歩となったことについて、クー

パー英外務大臣より祝意を受けた。「コ」大臣は、BHが直面している憲法秩序を損なう分離主義的な言動について指摘し、スルプスカ共和国(RS)において、二つの住民投票の実施が表明されていることに警鐘を鳴らし、その動向がBHだけではなく、より広い地域に渡って安全保障上の課題及び平和と安定への脅威をもたらし得ることを強調した。

●フォン・デア・ライエン欧州委員会委員長のBH訪問(14日)

14日、フォン・デア・ライエン欧州委員会委員長は、BHを訪問し、BH大統領評議会メンバー及びBH閣僚評議会議長と会談し、スレブレニツァ・ポトチャリを訪問した。クリシュトBH閣僚評議会議長との会談後、「フォ」委員長は、西バルカン成長計画は、BHに10億ユーロ規模の投資への扉を開けるものであるとし、次のステップに移るためには、審査が必要であり、その中での優先されるべきなのは、政府間会合の開催である。さらに、EU加盟に向けては、首席交渉官の任命及び司法に関する法律の採択が必要とされており、特に首席交渉官はBHの誰にとっても信頼を得ている人物でなければならないと語った。

●クリシュトBH閣僚評議会議長のベルリン・プロセス首脳会合への参加(23日)

23日、クリシュトBH閣僚評議会議長は、英・ロンドンで開催されたベルリン・プロセス首脳会合(注:2014年に開始した南東欧諸国のEU加盟に向けた活動を行う多国間プラットフォーム)に、西バルカン諸国の首脳及びEU関係者と共に出席した。同議長は、BHは昨年ベルリンで署名された枠組み合意を批准したことを伝え、移民、安全保障、経済成長に関する地域協力とEU拡大の取り組みに関し議論したと語った。

(2)二国間関係

●ヴァーデフル・ドイツ外務大臣との会談(9日)

9日、コナコビッチBH外務大臣は、ベルリン・プロセス外務大臣会合にあわせて、ヴァーデフル・ドイツ外務大臣と会談した。「コ」大臣は、BHの主権と領土一体性、欧州統合に対するドイツの支援に感謝を示し、国内の改革に向けた支援継続の必要性を伝え、経済関係においても投資、貿易相手、開発協力の主体としても重要であることを強調した。一方、「ヴァ」大臣は、西バルカンの安定とBHの欧州統合に対するドイツの関与及びBH内部からの改革の必要性を確認しつつ、国家機関の強化、法の支配、社会の強靱性に寄与するイニシアティブを支援し続けることを強調した。

●ギンケル当地米臨時代理大使のBH指導者との会談(22～23日)

22日から23日にかけて、ギンケル当地米臨時代理大使は、BH大統領評議会3メンバー、ニクシッチBH連邦首相及びチョービッチHDZ・BiH党首の計5名とそれぞれ相次いで会談した。今次一連の会合は、いずれも経済関係を主要テーマとしており、国際的な投資環境を整えるための政治状況の安定化、その基盤となるエネルギーの独立性と多様性の確保について協議された。

(3) 日・BH関係

●令和 6 年度草の根・人間の安全保障無償資金協力「イエゼロ市ごみ収集車整備計画」引渡式の実施（17日）

17日、相木大使は、スルプスカ共和国イエゼロ市（サラエボから北西に約 115 キロ）を訪問し、スネジャナ・ルジッチ市長等と共に、令和 6 年度草の根・人間の安全保障無償資金協力事業「イエゼロ市ごみ収集車整備計画」の引渡式に出席した。

ルジッチ・イエゼロ市市長は、日本政府からの寛大な支援に感謝の意を表するとともに、今後の日本とイエゼロ市とのさらなる関係の発展を願うと述べた。

日本政府は、同市に対し、ごみ収集車の導入のために 135,533 ユーロを供与した。本計画により、同市に住む約 1,150 人の住民が排出するごみの適時適切な収集が可能となり、同市の環境整備の向上に貢献することが見込まれる。

なお、イエゼロ市は、日本とボスニア・ヘルツェゴビナ間で現在のところ唯一、日本の和歌山県すさみ町との間で姉妹都市提携が結ばれている自治体である。



（写真：引渡式の様子）

●ボスニア・ヘルツェゴビナ国立・大学図書館への訪問（27日）

27日、相木大使は、サラエボ市内にあるボスニア・ヘルツェゴビナ国立・大学図書館を訪問し、古書を含む蔵書の保存や修復活動の様子を視察した。また、紛争時の被害から未だ環境が整備されていない中、たゆまぬ努力により図書館を維持し続けている職員に敬意を表すると共に、今後も協力していきたい旨を述べた。日本に関する記事が掲載されている古文献コレクションやポスターも紹介され、当国と日本とのつながりを知る貴重な機会となった。



（写真：訪問の様子）

3. 経済

(1)経済指標(出典: BH統計局)

●産業生産指数

2025年9月の産業生産指数は、季節調整後数値で前月比2. 4%プラス。前年同月比2. 7%マイナス。

●雇用／失業率

2025年8月の失業者登録数は32万2121人(うち女性19万2574人)で、前月比では変わらず、前年同月比で0. 4%プラス。

●平均給与

2025年8月の平均給与(手取り)は1, 579 KMで、前月比で名目賃金は1. 4%マイナス、実質賃金は1. 2%マイナス。前年同月比で名目賃金は13. 5%プラス、実質賃金は9. 0%プラス。

●消費者物価指数

2025年9月の消費者物価指数は前月比0. 2%プラス。前年同月比で平均4. 2%プラス。食料品・ノンアルコール飲料の価格は前月比0. 2%のマイナス。

●貿易収支

2025年9月のBHからの輸出総額は126億 KM(前年同期比6. 0%増)、BHへの輸入総額は222. 35億 KM(前年同期比4. 3%増)。貿易収支は96. 34億 KMの赤字。

(2)経済政策・公共事業

●BH中央銀行、旧紙幣の交換を呼びかけ(27日)

27日、BH中央銀行は、1998年から2009年に発行された10KM、20KM、50KM及び100KM紙幣は、2024年末に流通が終了し、法定通貨としての効力を失っているため、BHの商業銀行を通じて新紙幣への交換を呼びかけた。商業銀行による交換期限は2025年12月31日に迫り、同期限を過ぎた後は、BH

中央銀行によって、サラエボ及びバニャ・ルカの両都市で、2026年から2035年にわたって交換作業が実施される予定。

(3)経済協力

●セリモビッチBH中央銀行総裁のクロアチア訪問(28日)

28日、セリモビッチBH中央銀行総裁は、クロアチアを訪問し、ブイチッチ・クロアチア国立銀行総裁と会談し、欧州単一通貨圏(SEPA)に加盟するため、準備を進め、BH国家機関の権能を強化することが重要であると指摘した上で、クロアチアはユーロへの通貨統合においてかけがえのない成功例であるため、それぞれの経験を踏まえた率直な意見交換を行ったと語った。

(4)民間セクター

●国民的歌手ハリド・ベシュリッチ死去(13日)

7日、国民的歌手であるハリド・ベシュリッチが死去(享年72歳)。彼は、ステージ外においても、人道主義的な精神で人々に寄り添ったことでも知られている。同じく国民的歌手であるディノ・メルリン等の音楽界、そしてコムシッチ BH 大統領評議会議長、ベチロビッチ同評議会ボシュニャク・メンバー及びドディック前RS大統領を含む政界からも多くの弔辞が送られた。8日には、サラエボ・スケンデリヤにて集会が開催され、彼を偲ぶ聴衆が名曲の数々を唱和した。12日には、追悼のための大規模集会が執り行われ、サラエボのチトー通りを2万人が埋め尽くした。最終的に、BH国内にとどまらず、ザグレブ(クロアチア)、ベオグラード(セルビア)、リュブリャナ(スロベニア)、ミュンヘン(ドイツ)、トロント(カナダ)及びシドニー(オーストラリア)等を含む150の都市で追悼イベントが開催された。